
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 5

1954年 5月

倉敷昆虫同好会

倉敷附近の蝶類

(2)

小野 洋・広瀬 義躬

Familia LYCAENIDAE シジミチョウ科

23. *Curetis acuta paracuta* DE NICÉVILLE ウラギンシジミ
3月下旬～4月上旬、6月上旬～11月上旬、殊に北部丘陵地帯には普通に産す。
春期、フジに雌個体を比較的よく見受ける。
24. *Arhopala japonica* MURRAY ムラサキシジミ
3月上旬～4月下旬、6月中旬～11月上旬、各処の丘陵に産する。
25. *Japonica lutea* HEWITSON アカシジミ
6月上旬～下旬、やや少いが北部丘陵には普通。
26. *J. saepestriata* HEWITSON ウラナミアカシジミ
6月中旬～7月上旬、スナ科植物林に産す。
27. *Antigius attilia* BREMER ミスイロオナガシジミ
6月上旬～7月上旬、普通に産する。
28. *A. butleri* FENTON ウスイロオナガシジミ
6月中旬～7月下旬、非常に局所的で北部丘陵中のスナ科植物林一ヶ所にのみ産するが少い。
29. *Favonius orientalis* MURRAY オオミドリシジミ
6月上旬～7月上旬、各処の丘陵で普通に産する。
30. *F. saphirinus* STAUDINGER ウラジロミドリシジミ
6月中下旬、局所的で少い。北部丘陵中のスナ科植物林一ヶ所にのみ産す。
31. *Neozephyrus taxila japonicus* MURRAY ミドリシジミ

VOL.4 NO.5 目次

倉敷附近の蝶類(2).....	小野 洋・広瀬 義躬.....	1
おとしぶみ ホシミスジ memo (2).....	広瀬 義躬.....	3
藍山のギフチョウはのぞみうす? 小野 洋.....		4
春の山野所見(産卵2題).....	松井 俊 公.....	4
編集後記.....		4

- 6.7月、北部丘陵地帯及なつコラ山附近に産するが少い。
32. *Ahlbergia ferrea* BUTLER コツバメ
3月下旬～5月中旬、各処に少くない。殊に北部丘陵では普通に出現する。
33. *Lycaena phlaeas daimio* SEITZ ベニシジミ
3月下旬～11月上旬、到る処に普通。
34. *Lampides boeticus* LINNÉ ウラナミシジミ
2月上旬～11月、8月下旬から秋期にかけて各処に多い。
35. *Zizeeria maha argia* MÉNÉTRIÉS ヤマトシジミ
4月上旬～11月中旬、極く普通種。
36. *Zizina otis alope* FENTON シルウイアシジミ
5月～10月、個体数はやや少い。
37. *Celastrina argiolus ladonides* DE L'ORZA ルリシジミ
3月中旬～9月下旬、丘陵地帯の到る処に普通。
38. *Everes argiades seitzi* WNUKOWSKY ツバメシジミ
3月中旬～11月上旬、極く普通種。
39. *Tongeia fischeri* EVERSMANN クロツバメシジミ
4月下旬～11月上旬、北部丘陵、鶴形山に産するが、殊に鶴形山では8月頃かなり普通に見られる。

Familia LIBYTHEIDAE テンタチヨウ科

40. *Libythea celtis celtoides* FRUHSTORFER テンタチヨウ
3月中旬～4月中旬、6月上旬～11月上旬、丘陵地に普通。

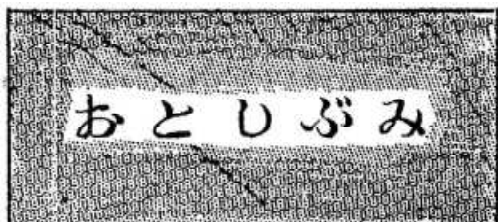
Familia DANAIDAE マタラチヨウ科

41. *Caduga tytia nipponica* MOORE アサギマタラ
9月下旬～10月中旬、北部丘陵でしばしば見かける。その他各処に現れるが少い。北部丘陵より5科少々北方の穂社市では8月に、南部の悦島半島では11月にそれぞれ記録がある。

Familia NYMPHALIDAE タテムチヨウ科

42. *Argynnis paphia geisha* HEMMING ミドリヒヨウモン。
6月下旬～10月下旬、丘陵地帯に普通に産す。
43. *A. sagana liane* FRUHSTORFER メスタロヒヨウモン。
5月下旬～10月下旬、普通種。
44. *A. anadyomene midas* BUTLER クモガタヒヨウモン
5月中旬～10月中旬、北部丘陵に少くない。

45. *A. cydippe pallescons* BUTLER ウラギンヒヨウモン
7月上旬～10月中旬、北部丘陵に極めて稀に産す。
46. *A. nerippe* FELDER et FELDER オオウラギンヒヨウモン
6月中旬～10月上旬、北部丘陵に産するが稀である。
47. *A. laodice japonica* MÉNÉTRIÉS ウラギンスジヒヨウモン
7月上旬～10月、乏しくない、北部丘陵に産する。
48. *Argyreus hyperbicus hyperbicus* LINNÉ ツマクロヒヨウモン
4月下旬～11月中旬、やや少ないが各地に出現する。



ホシミスジMemo

(2)

3) 1953年度の成虫没姿状況

今年はどうしたわけか例年に比して異常に遅く迄本種を見る事が出来たので本種の周年経過の一端を知る上の資料に迄と簡単にその状況を記したい。

先づ8月30日に倉敷市美和町所在の倉敷中央病院の庭にあつたシモツケ属の一種(種名不詳～これについてはいずれ調査する予定)より羽化(蛹殻にぶらさがっていた)の1匹を採集した。この個体は8月30日に羽化したのであるから、そのまま採集しなければ9月以降相当生存していたことであろう。ついで9月16日、岡山市浜所在の岡山県山高等学校校内に於て本種2頭を目撃した。1頭は校庭のニセアカシヤの葉上に静止中のもの、他の1頭は教室内に侵入して来たものであり、いずれも翅は一部破損していた。更に9月22日には、

P.M 2:00 岡山市上伊福にて1頭、P.M 2:20に岡山駅構内で1頭のいずれも飛翔中の本種を目撃するに及んで、全く驚いてしまつた次第である。この2頭はどちらの場合もあまり接近出来なかつたので、その破損程度ははつきりしないが、かなり完全なものようであつた。その後も岡山操山高校校庭では本種らしきものを度々認めただのであるが、接近出来なかつた爲、本種か全屈のコミスジかはつきり区別し兼ねるので、本種か否かは不明である。なお10月4日には近藤光宏氏が倉敷市住吉町の自宅で本種らしきものを目撃された由であるが、全氏の御話を伺うと、コミスジではないとはつきり断定出来ないので参考迄に記すにとめる。

しかし9月22日迄本種が見られたのは事実であつて、これは近年に於ける本種の最も遅い例(9月7日-1947年鶴形山にて)よりも半月も遅いわけである。なお昨年の終発日は8月26日倉敷白糸町にてであるが、これよりも遅い記録を御存知の方があるかも知れない。もしあれば切に御教示を望む。本年のこの観察からは注意すべき1-2の点もあるが今後の機会に譲る。私は本種の当地方に於ける周年経過について調べているが、調べが進む程全くわから

ないことだらけである。初発日、終発日は勿論、成虫を見た日、出来得ればその時の頭数等成虫に関する事だけで沁会員諸氏より資料の御提供を仰げば、どれだけ助かるかかわからない。(広瀬 義躬)

熊山のギフチョウ はのそみうす？

但下の *Lühdorfia japonica*.

LEECH ギフチョウは神庭の滝以北にかなり広く分布し、殊に藤山を中心とした地域には豊産すること知られている。しかしながら奥南地帯からは未だ記録が見られずお隣の広島県と比べて甚だお寒い状態である。以前から採集者の間にはよく知られた熊山にギフチョウの分布云々が問題にされたのはそう古くはないようである。そこで、同好会から昨年は4月26日に当地に出かけたが、既に本誌上に記した如く若干時期を逸し、卵も見られずたゞ食草のカンアオイのみは発見出来た。本県は奥南に於ける本種の発生期を予想して、4月4日に広瀬義躬氏と同行した。しかし一向に本種の虫影を認めることが出来ず、全くの徒勞に移った。このカンアオイは古屋野實氏によれば神庭の滝のものと同じものであるとのことであるが、何分にも数本少く、鉄道から山裾に入ったところのちよつとした杉林の中にわずかにちらはつていと云つた程度で、非常に限られた地域にのみ見られず、又山頂の杉林には見ることも出来なかつた。附近は次々と伐採されている状態で、それらの環境から考えて、以前たとえ産したとしても現在ではかなり疑わしいのではないかと思われる。勿論以上2回の調査から軽々しく否定してしまうことは出

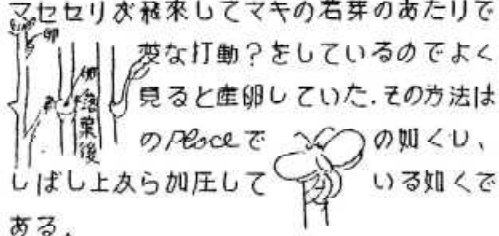
来ないが、としかく現在迄のところでは、のそみうすと云つたところ。(小野 洋)


春の山野所見

(産卵2題)

1. 昨日(1954年4月15日)津島半田山の龜山の尾根続きに行つていると、藤の花房にルリシジミが産卵生動を行つていたので観察していると、花房の先端の所に一弁宛産下し少し飛翔して再び他の花房にうつり産卵をしている。よく見ると花房という花房は沢山産卵されていた。

2. 同時 更に山を深く進んでいるとミヤマセセリが稀来してマキの右芽のあたりで変な打動?をしているのでよく見ると産卵していた。その方法はの如くし、しばし上から加圧して



卵は  で一見ヒヨウモン類のに似る。最初黄白色、後黄色となる。約0.7の略球体で縫線が明瞭である。我々が観察しているもので、あわてた?のの一部の如くでうまく安定せずすぐ脱落してしまつた。

(於、半田山公有林) (松井 俊公)

編 | 集 ツツジの花にカラスアケハ
後 | 記 や、フロアケハが集る頃となり
ました。"すずむし"もようやく遅れをとり心じしました。

相変らずの皆様投稿熱にはほとんど感心。今月は紙面の関係でおとしがみは3編この頃寄稿される方が限られて来たようです。どうか心つと大勢の皆様が寄稿されることを期待いたします。

すずむし 第4巻 第5号 昭和29年 5月 31日印刷
昭和29年 5月 31日発行

編集兼 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
送行者 害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會